（事後評価）

理工系女性研究者プロモーションプログラム

（実施期間：平成 20～22 年度）

実施機関：東京工業大学（総括責任者：伊賀　健一）

プロジェクトの概要

①「キャリアモデルプラン」による意識改革とキャリアモデル提示による若手女性研究者育成、②「オーダーメイドプラン」に基づく女性研究者個別のニーズに対応した支援策の策定と実施により、適正な研究環境整備を実施する。さらに、満足感をもって教育・研究に取り組む女性研究者の増加により、キャリアパスの一つとして研究者を選択する女子学生の増加を期待する。

①「キャリアモデルプラン」では、講演会、研究シンポジウムやセミナー、講義、中高生向け科学セミナーを活用し、女性研究者が活躍する実例とそのメリットをアピールし、また、他機関のキャリアモデル紹介により意識改革を進める。

②「オーダーメイドプラン」では、研究と育児等との両立のための環境を整備するとともに、女性研究者に個人面談を実施し、個別の問題に対応できるオーダーメイド型の支援策を策定、実施する。支援内容を系統的に整理し、効果を調査・分析し、総合的・効果的な支援策を確立する。

（1）　評価項目

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組	波及効果	実施体制	実施期間終了後における取組
S	a	a	a	s	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

（2）　評価コメント

全女性教員に対する聞き取り調査を踏まえ個別事情に対応したきめ細やかな支援を進めるとともに、女性研究者のネットワークを構築している。また、学長の強いリーダーシップの下、積極的に機関全体の意識改革を推進することにより女性限定学長裁量ポストの創設を可能とし、目標とした女性教員の増加を進めた。さらに、ライフイベントに係る制度改革を進めたことは、理工系大学のモデルとして高く評価できる。

目的達成度：個々の女性研究者に個別に対応するオーダーメイド型両立支援による研究環境整備、女性研究者の活躍紹介による意識改革の推進、女性教員採用比率の引き上げ等、所期の目標を確実に達成したことは評価できる。

システム改革の成果：任期付き教員の任期規則改正や子育て教員部分就業制度の創設など、柔軟な勤務体制の制度化を進めたことが評価できる。また、ポジティブアクションとして女性限定の学長裁量ポストを創設し、採用を行ったことも評価できる。

取組：全女性教員と個別に面談を行い、聞き取り調査を実施したことは、女性研究者のニーズ掘り起こしにおいて有効な取組となっている。また、女性研究者のための人材登録サイトの創設は、

女性の応募が極端に少ない工学系分野の教員公募へ女性の応募を促進する取組として評価できる。
波及効果：任期付き教員の育休・介護休業取得に伴う任期期間の延長という任期規則の改正は、他機関への波及効果が極めて高く評価できる。
実施体制：学長の強いリーダーシップの下、全学的な制度改革を進めるとともに、学長直属の男女共同参画推進センターを有効に機能させており高く評価できる。
実施期間終了後における取組：男女共同参画推進センターの設置及び専門コーディネーターの配置を継続し、また、効果の高かった取組及びニーズの高い取組もほぼ同じ規模で実施しており、機関の中期計画の重点施策として経費を確保しており、評価できる。